

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	105人	算数	105人	理科	105人
第5学年	国語	136人	算数	136人	理科	136人

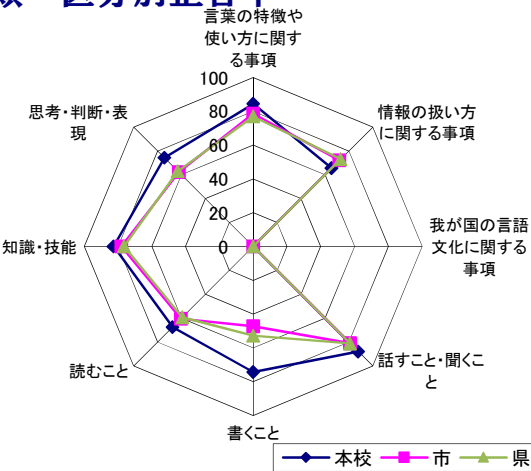
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	84.4	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	65.7	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	87.9	81.0	81.1
	書くこと	74.3	47.2	52.8
観点	読むこと	67.5	60.5	59.3
	知識・技能	82.6	78.0	76.5
	思考・判断・表現	74.3	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

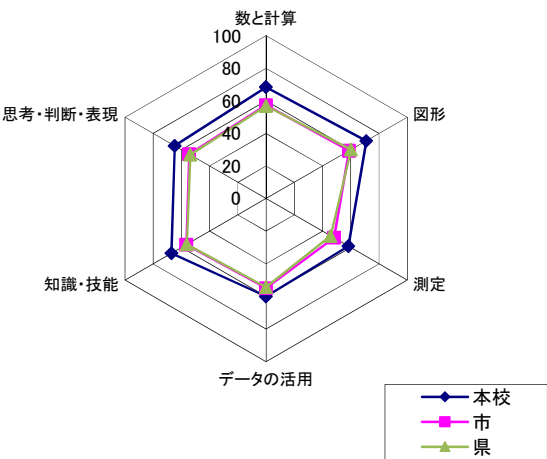
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県の平均を7.5ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きについては、どの設問も県の正答率を5ポイント以上上回っている。 ●ローマ字の読み方の問題については、県の平均を2.3ポイント下回っており、課題がみられる。	・漢字の読み書きについては、これまでの学習を継続し、定着を図る。漢字練習やミニテストだけでなく、文章の中でも漢字を使って書けるような課題を工夫し、漢字を書く力の向上につなげていく。 ・ローマ字については、ローマ字入力するときと、書くときとはローマ字での表現方法が異なることを理解し、使い分けができるよう指導していく。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は県の平均を7.4ポイント下回っている。 ●国語辞典の正しい使い方の定着に課題が見られる。	・授業で、紙の国語辞典に触れる時間を設定するなど、正しい使い方を身に付ける機会を確保していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均を6.8ポイント上回っている。 ○特に相手に伝わるように、理由を挙げながら自分の考えを話す設問については、県の平均を14.2ポイント上回っている。 ●話し合いの内容は概ね聞き取ることができていたが、内容を要約する力に課題が見られた。	・話し合い活動の際に、司会の役割を経験させるなどして、内容を整理しながら話し合いを進める力を身に付けられるようにする。 ・国語に限らず、他教科での話し合い活動や学級活動などの機会も活用し、話し合いの内容を要約し、伝えるという活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は県の平均を21.5ポイント上回っている。 ○指定された文章の長さで書くことや、根拠を明らかにして書くことなど、条件に沿って自分の考えを書くことができていた。 ●2段落構成の書き方の理解に課題が見られた。	・条件に合うように自分の考えを書き表すことを引き続き指導していく。 ・正しい原稿用紙の使い方や、正しい文章の書き方を指導する機会を継続的に確保し、定着を図る。 ・学習の目的に合った適切な手段(デジタルorアナログ)を選択し、指導に生かす。
読むこと	平均正答率は県の平均を8.2ポイント上回っている。 ○物語文及び説明文については、全ての問題において県の平均を上回っている。登場人物の気持ちや場面の様子をしっかりと捉えて、文章を読み取ることができている。 ●指示語が何を示しているのかを理解したり、文全体を捉え要約したりすることに課題が見られる。	・指示語が何を示しているのかを線を引くなどして、指示語の内容を確認する活動を行う。 ・他教科においても「何が書かれているのか」や「何を聞かれているのか」を自分の言葉で説明する活動を取り入れるなどして、文全体を捉える力を高めていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.4	57.4	56.9
	図形	71.0	58.7	60.1
	測定	58.3	48.1	45.7
	データの活用	60.0	54.9	54.3
観点	知識・技能	67.1	56.6	56.2
	思考・判断・表現	64.7	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

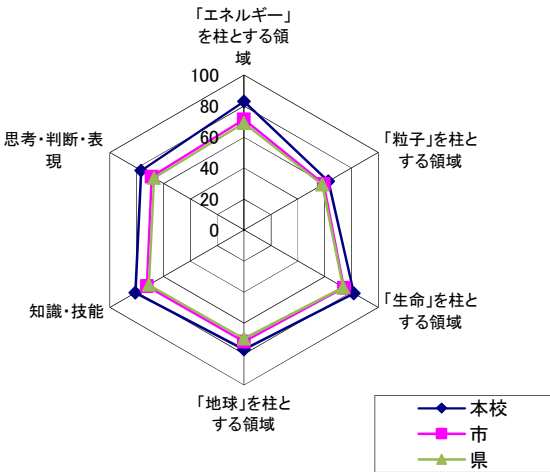
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均を11.5ポイント上回っている。 ○小数を除いた計算問題に関しては、県の平均を上回っているものが多く、身についていると考えられる。 ●整数と小数が混ざった計算や、小数が表す位置を数直線に表す問題では、正答率が5割程度に留まっている。	・計算のしかたを説明する機会を取り入れたり、図や数直線で表す機会を低学年のうちから丁寧に指導していく。 ・式が表す意味を考える時間や、説明をする時間などを多く取り入れ、ヒントカードを用いたり説明するポイントを示したり、用語を指示したりするなどして指導していく。
図形	平均正答率は、県の平均を10.9ポイント上回っている。 ○球を平面で切り取った切り口の形を理解しているかをみる問題では、県の平均を7.9ポイント上回った。 ●二等辺三角形となる頂点を選ぶ問題では、県の平均を9.7ポイント上回っているが、正答率は41.9%に留まっており課題がみられる。	・自主学習を活用して、様々な二等辺三角形を探す問題を考えたり、二等辺三角形以外の三角形との違いについて性質を比較したりしながら理解できるように指導していく。
測定	平均正答率は、県の平均を12.6ポイント上回っている。 ●はかりのめもりを読み取り、重さを答える問題では、県の平均を14.3ポイント上回っているが、正答率は43.8%に留まっている。	・実物を用いてはかりのめもりの読み方を学習し、実感を持てるようにする。また、単位変換について、量の感覚を養いながら反復学習で定着させていく。
データの活用	平均正答率は、県の平均を5.7ポイント上回っている。 ○二次元の表の合計欄の意味を理解しているかどうかを見る問題では、県の平均を8.9ポイント上回っており、基本的な表の性質について理解できていると考えられる。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフについて、その棒グラフが適切である理由を選ぶことができるかどうかをみる問題では、県の平均を1.2ポイント上回っているが、正答率は43.8%に留まっている。	・今後もグラフを読み取る時間を丁寧に取り入れていく。また複数のグラフを比較し、それぞれの違いや良さを説明する時間を取り入れ、どういうグラフがより適切なグラフになるか考えるように指導していく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	82.9	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	62.9	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	81.8	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	77.1	72.0	70.1
観点	知識・技能	81.0	72.5	70.9
	思考・判断・表現	76.7	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を13.8ポイント上回った。 ○鏡ではね返した日光の重なり方によって暖かさが変わることを理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を17.8ポイント上回った。 ●ゴムの本数を増やして実験した結果を適切に表しているグラフを選択できるかどうかをみる問題では、県の平均を8.6ポイント上回ったが、正答率62.9%と課題が残った。	・実験を通じた体験から分かったことが、知識として定着している。今後は、結果を知るだけでなく、なぜそのような結果になるのかを考察する活動を多く取り入れていく。また、表やグラフを活用し、必要な情報を読み取ったり、知識を結び付けて考察したりすることで深い学びに繋げていく必要がある。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を4.6ポイント上回った。 ○重さを比較しながら調べる際に、はかりを用いて正しく調べる技能が身に付いているかどうかをみる問題では、県の平均を6.1ポイント上回った。 ●粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる問題では、正答率が32.4%と低い結果であった。	・物の形が変化しても、重さは変わらないということは正しく理解している。しかし、問われている内容の理解が十分できず、誤答になっている。生活の中で科学的事象に触れる機会を意図的に設けるとともに、友達との意見交換などを通して様々な考えに触れ、自分の考えとの相違点を考える学習を取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を8.0ポイント上回った。 ○クモとモンシロチョウの体のつくりや足の数を比較し、クモが昆虫であるか判断できるかどうかをみる問題は、県の平均を14.5ポイント上回った。 ●モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを捉えることができるかどうかをみる問題では、県の平均を14.4ポイント上回ったが、正答率が57.1%と課題がみられる。	・クモとモンシロチョウの問題はもちろん、モンシロチョウとトンボの問題も、育ち方の違いは理解していたと思われるが、選択式であった前者と記述式であった後者という回答方法の違いが、正答率の違いとなったと考えられる。今後も、必要な言葉を漏らさずに適切な記述で回答ができるよう、全教科で指導を継続していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を7.0ポイント上回った。 ○方位磁針の使い方が身に付いているかどうかをみる問題は県の平均を15.4ポイント上回った。 ●日なたと日陰について見いだした問題に正対した記録を選べるかどうかをみる問題では、正答率が58.1%と課題が残った。	・「日なたと日かげ」「午前と午後の気温」という二つの条件の書かれた記録を選ぶ問題であるが、「日なたと日かげ」について条件のみを選ぶ誤答が多かった。一つ一つの問題に対しては正しく答えることができるので、今後は、複数の結果を組み合わせるそこから何かを導き出す力が身に付けられるように、考察の時間や内容を工夫していく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学習への興味について

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」という質問に対する肯定的回答の割合が県平均を上回っていた。学習に対して自分自身で取り組み、課題を解決しようとする意識が見られる。また分からないことをそのままにせず、本やインターネットを活用して最後まで取り組もうとする意欲も感じられる。今後、1人1台端末などを効果的に活用しながら、主体的に取り組む意欲を高めるようにしていきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強している。」「家で、学校の授業の復習をしている。」という質問に対する肯定的回答の割合が県平均を下回っていた。宿題では復習になる課題を出しているが、それ以外にも児童自身が苦手な部分を主体的に取り組めるよう復習の重要性を伝えていきたい。また、児童の興味や学習意欲が向上するように宿題の内容を工夫していきたい。

授業の様子について

○「授業を集中して受けている」という質問の肯定的回答割合が95.3%で県平均を3.9ポイント上回った。日頃の授業の様子からも授業に集中して取り組んでいる児童は多く見られ、学習に前向きな姿勢が感じられる。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」という質問の肯定的回答割合が96.3%と高い。本校の研究の取り組みとして「学び合い・伝え合い」ということに重きを置いて取り組んでいるが、児童自身も話し合いを通して学ぶことができていると伺える。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」という質問の肯定的回答割合が51.4%と低かった。学級全体で発表することに苦手意識のある児童が多い。まずは上記にある話し合いの活動をより充実させ、話すことに慣れていけるようにすると共に、自分たちの考えを発表しやすい雰囲気づくりに努めていきたい。

家庭学習について

○「家で、学校の宿題をしている。」という質問の肯定的回答割合が95.3%で県平均を2.0ポイント上回っている。宿題については、日頃の様子を見ても良好な状況であり、引き続き家庭学習が定着できるよう促していく。

●「新聞を読んでいる。」という質問の肯定的回答割合が5.6%だった。新聞に触れる機会が少ないかもしれないが、学校で定期購読している子供新聞などを活用して新聞に触れる機会を増やしていきたい。

生活の様子と学習の関係について

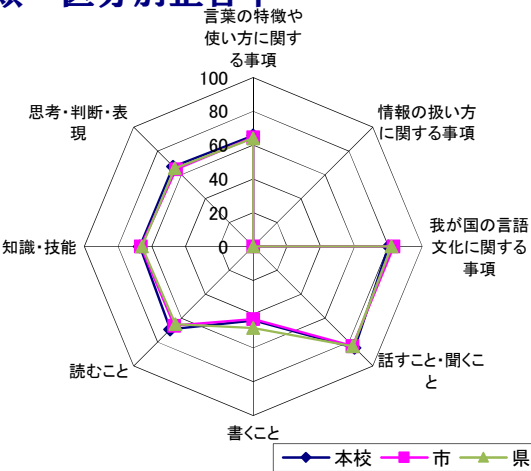
○「人と話すことは楽しい」「誰に対しても思いやりの心をもってせっている」の肯定的回答割合が97%以上と高かった。友達との良好な人間関係づくりができている様子が伺える。また、「将来の夢や目標をもっている」という質問項目も91.6%と高かった。今後も学校における様々な活動に対して、目標をもって取り組めるように支援していきたい。

●「漢字の読み方やことばのいみが分からないときは、辞書を使って調べている。」の肯定的回答割合が55.1%と低かった。教室の目が触れる場所に辞書を置くなど、インターネットからだけでなく辞書や本の活用できる場を設けていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.7	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	80.2	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	84.9	83.3	83.4
	書くこと	43.8	42.8	48.2
	読むこと	69.5	66.1	65.1
観点	知識・技能	67.1	66.5	65.9
	思考・判断・表現	66.9	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

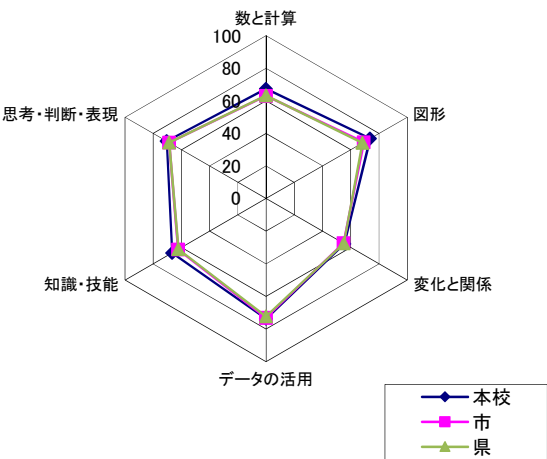
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県の平均を1.6ポイント上回っている。 ○漢字の書き取りについては、3問中2問が県の正答率を大きく上回っている。 ●文中における修飾と被修飾の関係を捉える問題については、県の平均を上回ったが、正答率が16.2%と課題がみられる。	・修飾と被修飾の関係については、文法の授業やワークシートやAIDリルなどの練習を通して理解を深めていく。また、文章を読み解く中で取り上げて指導したり、文を書く活動でより詳しく書くための工夫を考えさせたりするなどして定着を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は県の平均を1.7ポイント下回っている。 ●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかを考える問題の正答率は、80.2%であった。	・ことわざに興味をもてるような工夫をするとともに、ことわざを使った文の意味を考えることや短作文をすることで自分の表現に生かせるような活動を行い、言語感覚を豊かにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均を1.5ポイント上回っている。 ○話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ問題では、正答率が89.0%であり、県の平均を6.1ポイント上回っていた。 ●参加者の発言の内容を基に、司会者の発言に適する内容を書く問題の正答率は、76.5%で県の平均正答率0.8ポイント下回った。	・国語の授業だけでなく、他教科や学級活動等の話し合いの中で、話し方、聞き方の指導を引き続き行っていく。特に、司会の役割の経験をさせることで、話し合いの内容をまとめる力を育てていく。
書くこと	平均正答率は県の平均を4.4ポイント下回っている。 ●アンケート調査の結果を読み、7行から9行の間で文章を書く問題では、正答率が49.3%であり、県の平均正答率を7.3ポイント下回った。 ●自分の意見を書く問題については、正答率が46.3%であり、県の平均正答率を6ポイント下回った。また、すべての項目において無回答の割合が25.7%であった。	・日頃から、ICTを用いた活動だけでなく、書くことを基本とした活動を多く取り入れる。また、作文指導では、書くことへの抵抗がなくなるよう作文のルールを指導したり、自分の意見や考えを書く活動を多く取り入れたりする。 ・社会や理科の授業を活用して、資料をもとに自分の考えを書く機会を多く設ける。
読むこと	平均正答率は県の平均を4.4ポイント上回っている。 ○場面の様子について、発言者を捉えることができるかどうかを見る問題では、県の正答率を13.6ポイント上回っている。 ●話し合いの様子を読み、文章の内容と合っていることを話している人物を選ぶ問題の正答率は、県の平均より2.7ポイント下回っている。	・今後も司書教諭と連携し、多くの本に触れる機会を設け、児童が自ら本を読みたくするような環境を作る。 ・文章の読解力を向上させるために、日頃から友達と感想や意見の交流をする機会を多く設け、自分以外の意見に触れることができようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.4	63.0	63.3
	図形	73.7	69.2	68.3
	変化と関係	55.4	54.8	55.0
	データの活用	73.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	66.6	62.3	62.1
	思考・判断・表現	70.4	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

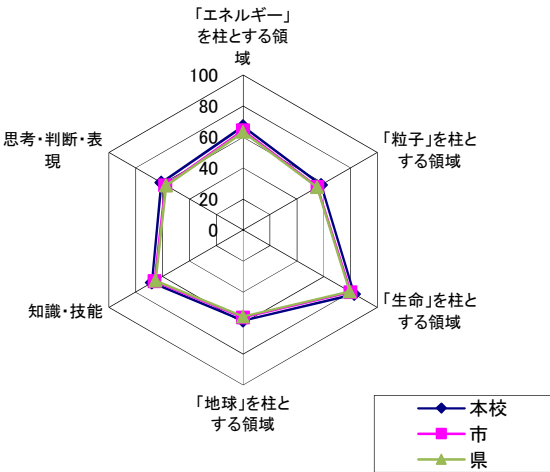
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県の平均を4.1ポイント上回っている。 ○図から数量の関係を読み取り、一つの式で表現することができるかどうかをみる問題では、県の平均を5.7ポイント上回っており、式の意味を正しくとらえることができているとみられる。 ●大きい数のしくみに関する問題では、県の平均より高いものの、正答率が42.7ポイントと課題が見られる。	・引き続き、式の意味を問題文や図と関連付けて考えられるように指導を進めていく。 ・大きい数同士の関係性について、位取り板を活用しながら位取りを意識した数の見方を養っていく。
図形	平均正答率は県の平均を5.4ポイント上回っている。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を立てることができるかどうかをみる問題では、県の平均を10.2ポイント上回り、80.9%の正答率だった。また、立体の構成要素から、立体を見分けることができるかどうかをみる問題の正答率も88.2%と高い正答率だった。	・今後も、コンパスや三角定規、分度器等を活用する機会を適宜設け、図形に関する知識の定着を図っていく。
変化と関係	平均正答率は県の平均を0.4ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、正答率が43.4%と低く、県の平均を7.4ポイント下回る結果となった。また、割合が基準量の何倍かで求められることを理解しているかどうかをみる問題では、正答率が45.6%と県の平均を5.8ポイント上回ったが、低い正答率となった。	・表から変化の仕方を丁寧に読み取る指導を続けていく。また、表を縦にみて、決まった数を見つけた上で、式に表せるように指導を続けていく。 ・割合、比較量、基準量の関係性をおさえていく。
データの活用	平均正答率は県の平均を1.4ポイント上回っている。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取る問題では、県の平均を5.6ポイント上回った。	・表及びグラフの読み取り方に定着がみられた。社会科をはじめとした他教科においても表やグラフを読み取る機会を意図的に設けることで、必要なことや傾向を読み取る力を高めていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	66.9	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	58.2	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.8	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	58.5	56.4	55.8
観点	知識・技能	68.0	66.0	65.3
	思考・判断・表現	61.1	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県平均を3.7ポイント上回っている。 ○直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を9.4ポイント上回った。 ●図で示された回路における乾電池のつなぎ方の「直列つなぎ」を理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を4.8ポイント下回った。	・問題把握、予想、計画、観察・実験、考察、結論の過程の中で、既習の理科用語や自分なりの言葉、さらに新出の理科用語を使って、書いてまとめる学習活動の充実に努める。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を3.1ポイント上回っている。 ○ガラス瓶の上の1円玉が動いた理由を、温められた空気の性質と関連付けて表現できるかどうかをみる問題では、県の平均を10.7ポイント上回った。 ●水を冷やしたときの温度変化について、予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる問題では、県の平均を11.3ポイント下回った。	・問題解決の手段として、できるだけ多様な方法で実験し、その結果を関連付けて考察、結論を導き出す過程を通して、理解をさらに深められるようにする。 ・問題に対して自分なりの予想を立て、予想通りなら、どのような結果(数値、グラフ)になるはずか見通しを立てる、結果と見通しとはどこが違ったのかを考察する、といった思考の流れを、書いてまとめる学習活動の充実に図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を3.5ポイント上回っている。 ○動物の越冬について調べた結果を基に、適切に比較してまとめた考察を選ぶ問題では、県の平均を7.6ポイント上回った。 ●骨と骨のつなぎ目の名称「関節」を答える問題では2.9ポイント、骨のはたらきを説明した文章をすべて選ぶ問題では2.3ポイント、県の平均を下回った。	・自然環境が豊かな地域性を生かし、身の回りの自然に目を向けさせ、自然事象への興味関心をさらに高めていく。 ・人体のつくりの学習は実物を目にすることができないので、模型、図書資料、映像資料を活用し、理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を2.7ポイント上回っている。 ○時刻によって星座の並び方は変わらないことや、北の星の動きについて理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を10.7ポイント上回った。 ●空気中の水蒸気が冷やされると結露して液体の水になることを、窓についた水滴と関連付けて考えることができるかどうかをみる問題では、県の平均を10.3ポイント下回った。	・「月と星」に関する学習は、学校で模型、図書資料、映像資料を活用しながら、月の形や位置の変化、星の位置の変化、観察の仕方を理解できるようにし、引き続き、家庭に実際の観察活動への協力をお願いしていく。 ・「地球」を柱とする領域「水の自然蒸発と結露」の学習と、「粒子」を柱とする領域「水の三態変化(氷・水・水蒸気)」の学習とを関連付けてまとめ、理解を深められるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学習への興味について ○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」という質問の肯定的回答割合が99.3%と高く、今学習していることは将来につながっていると考えている児童が多く、学習の重要性を理解していることが伺える。また、「国語の学習は好きですか」という教科への意欲に関わる質問も肯定的回答割合が高く、学習への興味の高さにつながっていると考えられる。 ●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」や「自然や宇宙など科学の内容をあつかつている本を読むのは好きだ」という項目の肯定的回答割合が6割程度とやや低い。授業の内容については興味・関心が高いが、日常生活につなげて考えることに課題が見られるので、学んだことをどう生活に生かすかという視点も育んでいきたい。
授業の様子について ○「授業の中で目標が示されている」という項目の肯定的回答の割合が93.4%であり、「授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いている」の肯定的回答割合が91.2%であることから、めあてをもって授業に参加していることが分かる。また「授業を集中して受けている」の項目の肯定的回答割合が96.4%と高く、課題に集中して取り組んでいる日頃の様子からも、授業への前向きな姿勢が感じられる。 ●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という項目で、「難しい」「やや難しい」と回答した割合が68.6%とやや高かった。様々な教科において自分の考えを書くということに取り組んでいるが、苦手意識をもつ児童もいるので、書く視点や、書き方の型を提示するなどして、書くことに慣れていけるようにしていきたい。
家庭学習について ○「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答割合が95.4%と高く、「学校の宿題は、自分のためになっている」の割合も96.4%となっている。普段の家庭学習に誠実に取り組んでいることが伺える。家庭学習については、復習を中心とした課題を出しているが、自分自身のために取り組んでいる意識が高いことで内容の定着にもつながっていると考えられる。 ●「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答割合が67.9%、「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的回答割合が51.9%と低い。宿題は確実に取り組んでいる一方で、自主的に計画立てて取り組んでいる学習があまりなされていないので、自主学習の例なども提示しながら呼び掛けていきたい。
生活の様子と学習の関係について ○「毎日朝食を食べている」の項目の肯定的回答の割合が94.9%であり、一日のよいスタートがきれていることが伺える。また「ふだん1日にどれくらいのすいみんをとることが多いですか。」の質問では8～10時間と答えた児童の割合が71.5%と比較的高く、上記にある「授業に集中している」の項目が高いのも、この良い生活習慣が関わっているものだと考えられる。 ●「ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり聞いたりしますか」という質問では、2時間以上と答えた児童の割合が約45.3%となった。県の平均より低いものの、平日2時間以上動画などを見ていると学習や睡眠にも影響があると考えられるので、メディアとの関わり方について今後も呼びかけていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「書く」「話す」活動を意図的かつ継続的に取り入れ、自分の考えを言語化し、他者と意見を交わす中で、思考を深め、主体的に表現する力の向上を図る。	・根拠や理由を明らかにし、順序だてて端的に話したり書いたりする指導を行っている。 ・授業以外の日常活動や、家庭学習等でも、自分の考えを表現する活動の工夫を行っている。 ・1つの事象を多面的に捉えたり、違った立場から意見を述べるなど、自分の考えを表現する活動を充実させている。	「書くこと」に関しては、学年差が大きく表れる結果であった。4年生は、条件に合った文章の長さや根拠を明確にして書く力の定着がみられる。「話すこと」に関しては、4・5年生ともに、話し方の工夫について理解できているものの、話し合い活動での司会の役割について課題が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
既習の基礎的、基本的な学習内容を発展させて考えたり、それを日常生活に活用したりすることに課題がみられる。	基礎・基本を確かに定着させ、学習の成果を他の単元や他教科等における見方・考え方と関連付けながら課題解決に取り組めるようにする。	・調べたことや考えたことを文章にしたり、資料を使って発表したりする機会を設け、思考力や表現力を高める。 ・個の考えを表現する活動の時間を十分に確保する。 ・資料をもとに分かることを考察し、書いたり話し合ったりする活動を学年の発達段階に応じて実施する。